

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名		唐津市立厳木小学校		中間評価		5 最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価
<p>1 前年度 評価結果の概要</p> <p>○業務の見直しを大胆に行いながら教育課程の編成を行い、スマートな教育活動が展開できるようにする必要がある。</p> <p>○学力向上と表現力育成を目指して、教科指導や様々な領域での指導に更なる工夫が必要である。</p> <p>○今年度も児童の活躍の機会を保障し、児童の考えを生かして自主的活動につなげながら主体的・創造的に活動する子どもの育成を目指した教育活動を展開していくことが大切である。</p>									
<p>2 学校教育目標</p> <p>豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成</p>									
<p>3 本年度の重点目標</p> <p>①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫 ②子どもたちの学習習慣の確立を図る ③子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる</p> <p>④心の教育(一人一人を大切にすること人権教育の深化と充実) ⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進 ⑥校内研究、職員研修の充実、業務改善と働き方改革の推進</p>									
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上アクションプラン(個人用)の10項目の平均点が4ポイント中3.5ポイント以上を達成した教師80%以上	・毎月末にチェックシートを記入し、指導法を振り返るとともに、項目毎に平均点を提示し、平均点が3.5以下の項目は、重点項目として共通理解する。						
	○学習内容の定着に向けた主体的で分かりやすい授業の実践と家庭学習の確立	○児童司会に取り組み「クラスの友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童80%以上	・授業づくりのステップ1・2・3を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動を設定。						
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・月1回おひさま朝会の実施 ・人権擁護委員会による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・学級活動に関する校内研修等の実施						人権・同和教育担当 道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていたと回答した教員80%以上	・年1回(6月)にQUTアンケートを実施 ・学期に1回生活アンケートを実施 ・定期に実施している「とまだちアンケート」後の担任による丁寧な聞き取りの実施。						教育相談 生活部
●健康・体づくり	◎「児童が夢や目標をもとめ、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「得た夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・授業の資質・能力を育む授業作りについての職員研修の実施。 ・実行委員会形式による学校行事の計画・実施や、委員会活動、クラブ活動、係活動において主体的性を育む活動を仕組み。						特活部
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」と回答した児童95%以上 ②生活振り返りアンケート「何時ごろ寝ましたかの回答に対して理想の時間に寝た児童 85%以上	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動が大好きな子どもを育てる」 ・運動能力向上につながる動きや遊びを職員間で共有したり、授業の中で児童に紹介したりして、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。 ・授業において健康の大切さを伝えるとともに、生活振り返りアンケートを定期的に実施し、児童の意識を高める。 ・家庭に対して、特に週末の生活(就寝時間)について呼びかける。						保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・月平均45時間以内の勤務を定員し、タイムマネジメントの習慣化を図る。						教務部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校	○地域人材の活用、地域での体験活動の推進	○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答80%以上	・地域からゲストティーチャーを積極的に招き、体験活動を行なう。 ・地域の方との交流の場を設け、学習の成果や思いを伝える。						教務部
○校内研究・職員研修の充実	○教員の専門性と意識の向上	○外国語教育・特別活動の進め方に関する専門性が向上した教員80%以上	・外国語に関する職員研修や学部での授業研修を行う。 ・学級活動の進め方に関する職員研修、教材・教具の作製と活用を行う。						研究主任・副主任 特別活動主任
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上(アンケートで)	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み) ・ケース会議の開催、情報共有 ・外部機関との連携						特別支援教育担当
<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>									
<p>5 総合評価・次年度への展望</p>									